泌 尿 器 科 学 講 座

教　授：頴川　　晋　　前立腺癌，泌尿器悪性腫瘍，腹腔鏡手術
教　授：小野寺昭一　　尿路性器感染症
准教授：池本　　庸　　男性科学，前立腺癌
准教授：岸本　幸一　　尿路感染，老人泌尿器科学
准教授：清田　　浩　　尿路感染症，前立腺肥大症，エンドウロロジー
准教授：浅野　晃司　　尿路上皮腫瘍，分子腫瘍学
講　師：古田　　希　　副腎腫瘍，尿路結石
講　師：鈴木　康之　　排尿障害，女性泌尿器科
講　師：波多野孝史　　腎細胞癌
講　師：三木　健太　　前立腺癌

教育・研究概要

I.　泌尿器悪性腫瘍に関する研究

1.　基礎的研究

1)　プロテオーム解析による前立腺癌および尿路上皮癌特異新規腫瘍マーカーの探索

プロテオーム解析法による新しい前立腺癌および尿路上皮癌バイオマーカーを探索している。本研究から前立腺癌新規バイオマーカーSND1を発見した。前立腺摘出検体を用いた検討ではSND1の発現と前立腺癌の悪性度，進展度に有意な相関があった。これらの結果は第96回日本泌尿器科学会，第66回日本癌学会等で発表した。本研究の内容は，Am J Pathol 2009 ; 174(6) : 2044-50で発表した。

2)　日本人由来新規前立腺癌細胞株の樹立

日本人前立腺癌患者の手術検体から新規前立腺癌細胞株を樹立した。これまでアジア人由来の前立腺癌細胞株は極めてまれで，今後アジア人前立腺癌の研究に有用と考えている。この結果は第17回日本泌尿器科学会，2009年ヨーロッパ泌尿器科学会，米国泌尿器科学会およびThe Prostate誌に発表した。

3)　前立腺癌幹細胞についての検討

現在その存在が示唆されている前立腺癌幹細胞の分離とその性質の同定，さらに癌幹細胞に対する治療を目標に研究している。これまでにヒト前立腺癌細胞株のなかでCD133陽性の分画には幹細胞様の性質を有する細胞が存在することを発見し，Cancer Research誌に発表し，第96回日本泌尿器科学会等で発表した。第2回ヤングリサーチグラントを受賞，第97回日本泌尿器科学会総会で発表。今後，前立腺癌と尿路上皮癌を中心に初代培養を用いて，癌幹細胞の研究を継続していく予定である。

4)　神経泌尿器科，女性泌尿器科に関する基礎的研究

(1)　過活動膀胱と腹圧性尿失禁との関連に関する基礎的研究

妊娠や出産に伴う陰部神経の損傷により，腹圧性尿失禁を生じることはよく知られているが，陰部神経の部分損傷が過活動膀胱を同時に誘発することを実験的に証明した。これは，女性の尿失禁のなかで，混合性尿失禁（腹圧性尿失禁と切迫性尿失禁の両方を併発）が臨床的に最も多いことと一致する。以上の内容を2007年国際禁制学会（Rotterdam）ならびにAm J Physiol 2008 ; 294 (5) : 1510-16で発表した。

(2)　腹圧性尿失禁に対する自家骨格筋芽細胞移植療法の有用性に関する基礎的研究

尿失禁を呈するラットの尿道に人の大腿部から採取した骨格筋芽細胞を移植したところ，尿失禁は改善した。その神経生理学的機序を2007年国際禁制学会（Rotterdam）ならびにInt Urogynecol J 2008 ; 19 (9) : 1229-34で発表した。

(3)　腹圧時の尿禁制におけるα2アドレナリン受容体の役割に関する基礎的研究

尿禁制においてα1アドレナリン受容体が重要な役割を果たしていることがすでに証明されている。今回，中枢におけるα2アドレナリン受容体とグルタミン酸との関連について，2008年米国泌尿器科学会（Orlando），2008年アジア国際禁制学会（Kaohsiung）で発表した。

(4)　陰部神経損傷後の尿禁制代償機序に関する基礎的研究

出産後，約3割の女性に腹圧性尿失禁が認められるが，およそ半年以内に消失する。一方，妊娠や出産に伴う陰部神経の損傷は加齢とともにむしろ増悪する。このことは，陰部神経損傷による尿道（閉鎖）機能障害を代償する機序が働いているものと推測される。この陰部神経損傷後の尿禁制代償機序について，2008年日本泌尿器科学会（横浜）で発表した。

2.　臨床的研究

1)　Intermediate risk 前立腺癌に対する小線源永久挿入療法における補助内分泌療法効果の検討

早期前立腺癌に対する放射線治療としてI^{125}密封小線源を前立腺に挿入する小線源永久挿入療法を2003年10月より行っている。当院は国内2番目に同治療を開始しており，現在治療計画法による線量

計算の違いや，副作用の発生頻度につき研究中である。Intermediate risk 群に対して補助内分泌療法効果の効果を検討している。

2) High risk 前立腺癌に対する，外照射併用高線量率組織内照射療法の検討

High risk グループの前立腺癌の治療の際に外照射併用高線量率組織内照射療法（HDR brachytherapy）とホルモン治療の種類と投与期間の違いにより治療効果と副作用にどのように影響するかを検討している。

II. 感染症・STD に関する研究

1. 基礎的検討

近年蔓延しつつあるキノロン・セジキシム耐性淋菌に対する各種薬剤併用効果を *in vitro* で検討した，その結果，マクロライド系抗菌薬（クラリスロマイシンあるいはアジスロマイシン）と β-ラクタム系抗菌薬（セフテラムあるいはオーグメンチン）との間に抗菌力の増強効果を認め，これを J Inf Immun に掲載した。

2. 臨床的検討

「東京泌尿器科 STD 研究会」を組織して，首都圏における淋菌性尿道炎の動向について調査を継続している。各種抗菌薬の淋菌に対する感受性の検討で

ニューキノロン薬に対する耐性化がさらに強まり，またセフィキシム耐性株も出現してきた。1 で述べたような基礎的検討から淋菌性尿道炎に対するクラリスロマシシンとセフテラムの併用療法について臨床研究をおこなっている。現在のところこの併用療法では下痢などの重篤な副作用もみられず 90%以上の臨床効果を得ており，この結果を日本性感染症学会第 20 回学術集会で発表した。

III. 排尿障害に関する研究

1. 排尿障害に関する研究

薬物療法が主の過活動膀胱の罹患頻度は加齢とともに上昇する。しかし，高齢者は薬物代謝機能低下で予想外の副作用を生じる可能性がある。そこで抗コリン薬と α 遮断薬を対象とし，少量での有用性を検討した。前者の結果は第 14 回日本排尿機能学会（2007 年）にて報告した。

また，客観的排尿状態評価に有用とされる Frequency-Volume chart の認知度を上げるため第 95 回日本泌尿器科学会総会（2007 年）における報告を行い内容を投稿中（ファーマナビゲーターシリーズ in press）である。

また，植物製剤の前立腺肥大症治療における臨床効果を再検討し報告（泌尿器外科 2007 ; 20 : 1215-20）した。

2. 夜間頻尿の病態解明とその治療

夜間頻尿を惹起する因子のである心不全に注目し，その指標となる脳ナトリウム利尿ペプチド（BNP）量と夜間尿量比等を検討しその重要性を第 95 回日本泌尿器科学会総会（2007 年）にて報告した。また，治療の一環として前立腺肥大症を伴う夜間頻尿にて α 遮断薬が睡眠の質を上げることを報告（臨床泌尿器科 2007 ; 61 : 997-1001）した。

IV. 腎・内分泌・副腎腫瘍に関する研究（古田希）

1. Preclinical Cushing 症候群（PCS）術後のステロイド補充に関する検討

PCS で手術を施行された 17 例を対象に，術後のステロイド補充に関する retrospectivena な検討を行った。ステロイド補充は 13 例に施行されており，1 例の長期補充例を除くと平均 33 週間で離脱していた。PCS はコルチゾールの自律性分泌があるため，健側副腎機能が抑制されていると，術後の副腎不全をきたす可能性がある。しかし，術前 ACTH が正常かつ副腎皮質シンチで健側の抑制所見がないものは術後のステロイド補充なしでも，副腎不全症状はなかった。また，低侵襲な腹腔鏡開放性手術では，術当日ハイドロコーチゾンを減量しても問題は生じていない。PCS のステロイド補充は，術後の副腎不全を回避するという点で有用な方法であるが，症例と治療に応じた適正な補充療法の確立が必要と考えられた。

2. 原発性アルドステロン症（PA）に対する ACTH 負荷副腎静脈サンプリング（AVS）の現状についての検討

PA の診断で手術を施行した症例を retrospective に検討し，局在診断における AVS の現状を検討した。対象は本症の 21 例で，CT，アドステロールシンチ，AVS が初診時すべてが施行されていた症例が 16 例で，うち 13 例は局在が一致していた。残りの 3 例中 2 例はシンチで局在がつかず，うち 1 例は CT でも描出されない径 8mm の腺腫で，AVS でのみ診断が可能であった。CT による局在と，シンチもしくは AVS の所見のどちらか一方が一致した 5 例に対しては，そのまま手術が施行された。内分泌学的に本症と診断され，CT による形態診断とシンチによる質的診断が一致した場合，その侵襲性を考慮すれば AVS は必ずしも必須な検査ではない。しかし，1cm 以下の小腫瘍では CT とシンチ

の診断率が著しく低下するため，微小腺腫に対する早期治療を考えれば，積極的に行うべき局在診断法と考えられた。

V. Endourology & ESWL に関する研究

1. 前立腺肥大症に対する経尿道的前立腺焼灼術（HoLAP）の臨床的検討

HoLAP は出血が少なく生理食塩水を還流液として用いるため TUR 反応がないため TUR に替わる治療法として期待されている。平成 17 年から現在までに 45 例にこれを施行し，良好な治療成績を得ており，この結果を第 21 回日本 Endourology・ESWL 学会で報告した。

2. 上部尿路結石に対する体外衝撃波結石破砕術

平成 14 年 7 月に体外衝撃波結石破砕装置ドルニエ D を導入し，平成 19 年 3 月までに 776 例，808 結石を対象に ESWL を施行した。結石の部位別内訳は腎結石 340 結石，尿管結石 468 結石であり，部位別の有効率は各々，腎杯結石では 78.5%，腎盂結石では 76.7%，上部尿管結石では 84.8%，中部尿管結石では 88.8%，そして下部尿管結石では 87.3%であった。これらは外来日帰り治療を原則としており，良好な治療成績を得ることができた。

3. パイロニー病に対する体外衝撃波治療（ESWT）

平成 15 年 8 月に高度先進医療として認可されたが，平成 17 年 7 月に高度先進医療を取り消されたため自費診療でおこなうこととなった。現在までに 12 例に本治療をおこなった。11 症例では陰茎海綿体の硬結は縮小あるいは軟化し勃起時の陰茎痛は消失したため性交は可能となり良好な成績を得ることができた。今後さらに症例を積み重ねてその有効性について検討していく予定である。

「点検・評価」

2008 年は論文投稿や日本泌尿器科学会をはじめ多くの分科会での研究発表など比較的多くの研究業績を残すことができた。腫瘍研究では引き続きプロテオミクス，癌幹細胞を中心とした基礎研究や他施設共同での臨床研究で多くのプロジェクトが進行しおた。また，新しい前立腺癌細胞細胞株の樹立に成功し，今後の研究が期待される。また，神経泌尿器科，女性泌尿器科についての研究も始まった。感染症・STD に関する研究は，引き続き近年注目されている薬剤耐性淋菌を基礎と臨床の両面から検討中である。排尿障害・ED に関する研究は排尿症状の客観的評価法を確立し，臨床研究を中心に加齢や睡眠障害と排尿状態との関係を比較検討した。腎・内分泌・副腎腫瘍に関する研究においては，副腎疾患の研究に取り組み，新しい知見を得ることが出来た。また，Endourology の領域と重複するが，副腎腫瘍に対する腹腔鏡下手術がすでに標準術式であることを報告し，腎臓における部分切除，ablation therapy などの新しい分野への臨床研究も進行している。Endourology & ESWL 研究班は，従来より行われている尿路結石，パイロニー病に対する研究に加え，前立腺肥大症に対するレーザー治療（HoLAP）を導入し，積極的に臨床研究を行っている。

研 究 業 績

I. 原著論文

1) Saito S[1], Murayama Y[1], Pan Y[1], Taima T[1], Fujimura T[2,3,4] ([4]Juntendo University), Murayama K[2,3] ([2]Pacigic Nothwest Research Institute), Sadilek M[3] ([3]University of Washington), Egawa S, Ueno S, Ito A[1], Ishidoya S[1], Nakagawa H[1], Kato M[1], Satoh M (Sen-dai Hospital), Endoh M[1], Arai Y[1] ([1]Tohoku University). Haptglobin-β chain defined by monoclonal antibody RM2 as a novel Serum marker for prostate cancer. Int J Cancer 2008 ; 123 (3) : 633-40.

2) Furuta A, Kita M, Suzuki Y, Egawa S, Chancellor MB, de Groat WC, Yoshimura N. Association of overactive bladder and stress urinary incontinence in rats with pudendal nerve ligation injury. Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol 2008 ; 294 (5) : 1510-6.

3) Furuta A, Jankowski RJ, Pruchnic R, Egawa S, Yoshimura N, Chancellor MB. Physiological effects of human muscle-derived stem cell implantation on urethral smooth muscle function. Int Urogynecol J 2008 ; 19 (9) : 1229-34.

4) Kyung Kim D, Jankowski RJ, Pruchnic R, de Miguel F, Yoshimura N, Honda M, Furuta A, Chancellor MB. In vitro and in vivo effect of lidocaine on rat muscle-derived cells for treatment of stress urinary incontinence. Urology 2008 ; 73 (2) ; 437-41.

5) Haga K[1], Tomioka A[1], Liao CP[2], Kimura T, Matsumoto H[1], Ohno I[1], Hermann K[1], Logg CR[1], Jiao J[1], Tanaka M[1], Hirao Y[1], Wu H[1], Kruse CA[1], Roy-Burman P[2] ([2]USC), Kasahara N[1] ([1]UCLA). PTEN knockout prostate cancer as a model for

experimental immunotherapy. J Urol 2008 ; 181 (1) : 354-62.
6) Hayashi N, Urashima M, Kuruma H, Arai Y, Kuwao S, Iwamura M, Egawa S. The maximum tumour length in biopsy cores as a predictor of outcome after radical prostatectomy. BJU Int 2008 ; 101(2) : 175-80.
7) 鈴木康之, 古田昭, 長谷川雄一. 過活動膀胱患者におけるデトルシトールの処方経験 新薬と臨 2008 ; 57 (4) : 490-7.
8) 車 英俊, 頴川 晋, 馬場志郎, 前田忠計. 特集 新しいライフサイエンス 前立腺癌を認識する新規マーカータンパク質 化学工業 2008 ; 59(12) ; 955-60.
9) 成岡健人, 鈴木康之, 古田 昭, 遠藤勝久, 菅谷真吾, 頴川 晋. α1受容体遮断薬(ナフトピジル)に抵抗性症状を有する前立腺肥大症患者に対するエビプロスタットの追加投与の臨床的検討. 泌紀 2008 ; 54(5) : 341-4.
10) 山田裕紀, 木村高弘, 三木健太, 岸本幸一, 大石幸彦, 頴川 晋, 森 豊. 腎温存手術後の患側残存腎機能評価における術前 99m Ｔｃ -MAG3 腎動態シンチグラフィの有用性. 泌紀 2008 ; 54(2) : 89-93.
11) 佐々木裕, 頴川 晋. 【外来がん化学療法のノウハウ】外来化学療法の実際 泌尿器癌. 臨と研 2008 ; 85 (3) ; 371-3.
12) 佐々木裕, 頴川 晋. 【前立腺癌 診断と治療の新展開】限局癌治療の新展開 腹腔鏡下神経温存根治的前立腺摘除術. Pharma Med 2008 ; 26(8) : 27-30.
13) 佐々木裕, 頴川 晋. 【EAU/AUA/ASCO における泌尿器腫瘍のトピックス・進歩 2008】限局性前立腺癌の治療. 泌外 2008 ; 21(10) ; 1351-5.
14) 長谷川雄一, 鈴木康之, 頴川 晋. 【二分脊椎の発生病態と予防および総合医療】当院における二分脊椎症患児の尿路管理の現状. 小児の脳神 2008 ; 33(1) ; 40.
15) 山本順啓, 頴川 晋. 【限局性前立腺癌の grading と staging の update】限局性前立腺癌における grading と staging 上の問題点. 泌外 2008 ; 21(1) : 3-5.

II. 総 説

1) 山崎春城. 【地域医療連携実践ガイドブック 医療連携の地域モデルを疾患別に厳選して収載!】がん 前立腺がんの地域連携とクリティカルパス. 治療 2008 ; 90(3 月増刊) : 777 − 82.
2) 山崎春城. 病診連携促進講座 逆紹介/返送の実際 前立腺癌術後の長期管理. 日医新報 2008 : 4410 ; 44-7.
3) 清田 浩, 木村高弘, 頴川 晋. 【前立腺癌治療後の PSA 再発をいかにとらえるか】前立腺全摘除術後の PSA 再発の自然史. Urol View 2008 : 6(2) ; 10-4.
4) 鈴木康之. 尿失禁に関連した手術 女性尿失禁の手術 TVT 手術と TOT 手術. 臨泌 2008 ; 62(6) : 391-8.
5) 鈴木康之, 小杉 繁. 排尿障害教室 排尿直後の尿の観察が早期発見につながる 薬剤投与によって起こる排尿障害. 難病と在宅ケア 2008 ; 13(11) : 59-62.
6) 鈴木康之. 各科領域からみた薬物による排尿障害. 排尿障害 2008 ; 16(1) : 7.
7) 鈴木康之, 古田 昭, 長谷川雄一. 過活動膀胱患者におけるデトルシトールの処方経験. 新薬と臨 2008 ; 57(4) : 490-7.
8) 鈴木康之. 【12Lesson で完全マスター 尿失禁 & 女性泌尿器科疾患のケア】尿失禁タイプ別症状のつかみ方と治療・ケア 切迫性尿失禁 男女で加齢とともに増える過活動膀胱. 泌ケア 2008 ; 冬季増刊 : 99-118.
9) 古田 昭, 長谷川雄一, 鈴木康之. 【プライマリケアにおける下部尿路機能障害へのアプローチ】残尿測定と排尿機能の評価. Prog Med 2008 ; 28(6) : 1407-11.
10) 長谷川雄一, 鈴木康之, 頴川 晋. 二分脊椎の発生病態と予防および総合医療】当院における二分脊椎症患児の尿路管理の現状. 小児の脳神 2008 ; 33(1) : 41-2.

III. 学会発表

1) 山崎春城, 佐々木裕, 木村高弘, 下村達也, 山田裕紀, 車 英俊, 三木健太, 頴川 晋. 前立腺がん地域連携ネットワーク CaPMnet の構築 東京慈恵会医科大学附属病院における前立腺がん診療圏の検討. 第 96 回日本泌尿器科学会総会. 横浜, 4 月. [日泌会誌 2008 ; 99(2) : 344]
2) 池本 庸, 山本順啓, 面野 寛, 梅津清和, 都筑俊介, 中條 洋. LUTS/BPH 男性における尿漏れの臨床的検討. 第 73 回日本泌尿器科学会東部総会. 東京, 9 月.
3) 池本 庸. 長期(25 年)経過観察した Kallmann 症候群の 1 例. 第 27 回日本アンドロロジー学会. 京都, 7 月.
4) 鈴木正泰, 田代和也, 伊藤博之, 宇都宮拓冶, 田中克幸, 渡辺 聡. 厚木市前立腺癌検診 4 年間の成績. 第 73 回日本泌尿器科学会東部総会. 東京, 9 月.
5) 鈴木康之. (セミナー)高齢者の夜間頻尿対策. 第 58 回日本泌尿器科学会中部総会. 大津, 11 月.
6) 古田 希, 小出晴久, 佐々木裕, 山田裕紀, 長谷川雄一, 木村高弘, 車 英俊, 頴川 晋. Preclinical Cushing 症候群術後のステロイド補充に関する臨床的検討. 第 96 回日本泌尿器科学会総会. 横浜, 4 月. [日

泌会誌 2008 ; 99(2) : 281]

7) 遠藤勝久, 清田 浩, 小野寺昭一, 鈴木博雄, 成岡健人, 細部高英(細部医院), 讃岐邦太郎. 男子淋菌性尿道炎由来淋菌に対する各種抗菌薬の感受性－1999～2008年分離株の比較－. 第21回日本性感染症学会学術大会. 東京, 12月.

8) 波多野孝史, 鈴木 鑑, 大塚則臣, 山口泰広, 面野寛, 岸本幸一, 讃岐邦太郎, 吉元ちえ子, 鎌田裕子, 車英俊, 頴川 晋, 大西哲郎. 免疫組織化学的手法による両側腎細胞癌の染色性に関する検討. 第96回日本泌尿器科学会総会. 横浜, 4月. [日泌会誌 2008 ; 99(2) : 339]

9) 冨田雅之, 赤阪雄一郎, 古田 希, 岸本幸一, 山本裕康, 波多野孝史, 山田裕紀, 下村達也, 小池祐介, 頴川 晋. 慈恵医大附属病院における35年間の腎移植症例の検討. 第96回日本泌尿器科学会総会. 横浜, 4月. [日泌会誌 2008 ; 99(2) : 477]

10) 車 英俊, 木村高弘, 鎌田裕子, 鷹橋浩幸, 下村達也, 三木 淳, 佐々木裕, 三木健太, 頴川 晋. (シンポジウム)新規前立腺癌マーカーSND1の抗体は免疫染色において臨床的意義のある癌を染め分けることができるか. 第24回前立腺シンポジウム. 東京, 12月.

11) 三木健太. (パネルディスカッション : 症例より学ぶ―前立腺がん)3. 小線源療法(ブラキセラピー)の特徴と役割. 第73回日本泌尿器科学会東部総会. 東京, 9月.

12) Furuta A, Kaiho Y, Kita M, Suzuki Y, Egawa S, Chancellor MB, Yoshimura N. Noradrenergic mechanisms in the urethral continence reflex controlling urethral smooth muscle and striated muscle function in rats. 103rd Annual Scientific Meeting of the American Urological Association. Orland, May.

13) Furuta A, Ichiyanagi N, Matsumoto Y, Suzuki Y, Egawa S, Yoshimura N, Chancellor MB. Role of α2-adrenoceptors and glutamate receptors in the control of external urethral sphincter activity during urethral continence. 103rd Annual Scientific Meeting of the American Urological Association. Orland, May.

14) 木村高弘, 車 英俊, 鎌田裕子, 鷹橋浩幸, 下村達也, 山田裕紀, 佐々木裕, 三木健太, 清田 浩, 山崎春城, 頴川 晋. 新規前立腺癌関連蛋白質TT902の前立腺癌における発現および機能の解析. 第96回日本泌尿器科学会総会. 横浜, 4月. [日泌会誌 2008 ; 99(2) : 231]

15) 木村高弘, 平岡 圭[1], 芳賀和徳[1], 清田 浩, 大橋十也, 衛藤義勝, 頴川 晋, 笠原典之[1]([1]UCLA). Improvement of transduction efficiency of rcr vector by complexation of polybrene and chondroitin sulfate C. 第14回日本遺伝子治療学会. 札幌, 6月.

16) 長谷川雄一, 上岡克彦. 二期的口腔粘膜利用尿道形成術(Bracka's手術)の臨床的検討. 第17回小児泌尿器科学会総会. 高松, 7月. [日小児泌会誌 2008 ; 17(1) : 89]

17) 三木 淳, 古里文吾, 木村高弘, 車 英俊, Rhim JS, 頴川 晋. 前立腺由来テロメラーゼ導入不死化細胞株, および前立腺癌手術後検体における幹細胞マーカー, CD133, CXCR4の同定. 第96回日本泌尿器科学会総会. 横浜, 4月. [日泌会誌 2008 ; 99(2) : 379]

18) 佐々木裕, 三木 淳, 讃岐邦太郎, 木村高弘, 頴川晋. 腹腔鏡下前立腺全摘除術における尖部処理の工夫. 第21回日本内視鏡学会総会. 横浜, 5月.

19) 吉良慎一郎, 佐々木裕, 木村高弘, 三木健太, 古田希, 清田 浩, 頴川 晋. 当科におけるHoLEP・HoLAPの治療経験. 第96回日本泌尿器科学会総会. 横浜, 4月. [日泌会誌 2008 ; 99(2) : 361]

20) 讃岐邦太郎, 波多野孝史, 岸本幸一, 並木 珠, 原田潤太, 山崎春城, 頴川 晋. 前立腺癌局所診断におけるMRI拡散強調画像の有用性に関する検討. 第96回日本泌尿器科学会総会. 横浜, 4月. [日泌会誌 2008 ; 99(2) : 389]

IV. 著 書

1) 鈴木康之. 排尿日誌の活用法. ファーマナビゲーター10 : 下部尿路機能障害編. 柿崎秀宏, 吉田正貴編. 大阪 : メディカルレビュー社, 2008. p.282-7.

2) 鈴木康之. 各種質問票の有用性と課題 6.症状・困窮度の評価－質問票の有用性と課題－. 山口 脩, 西沢理編. New concepts of BPH/LUTS 2008. 東京 : リッチヒルメディカル, 2008. p.57-60.

3) 鈴木康之. 排尿障害 : 尿失禁 過活動膀胱, 神経因性膀胱. 福井次矢監修. 新赤本 : 家庭の医学. 第6版. 東京 : 保健同人社, 2008. p.1126-31.

4) 鈴木康之. 夜尿症. 福井次矢監修. 新赤本 : 家庭の医学. 第6版. 東京 : 保健同人社, 2008. p.1267.

5) 遠藤勝久, 小野寺昭一. 性感染症(淋菌). 山口惠三, 戸塚恭一編. KEY WORD感染症. 第2版. 東京 : 先端医学社, 2008. p.84-5.

V. その他

1)遠藤勝久. 【泌尿器科外来ベストナビゲーション】尿路・性器の炎症性疾患【尿路性器結核】無菌性膿尿の患者です。尿培養で結核菌が検出されました。対処と処方について教えてください。 臨泌 2008 ; 62(4) : 75-7.

2)遠藤勝久. 【泌尿器科外来ベストナビゲーション】尿路・性器の炎症性疾患【カンジダ感染】寝たきりの高

齢者が発熱しました。全身検索を行ったところ，尿培養によりカンジダを検出しました。対処と処方について教えてください。 臨泌 2008；62(4)：78-9.
3)遠藤勝久.【泌尿器科外来ベストナビゲーション】尿路・性器の炎症性疾患【淋菌性尿道炎】淋菌とクラミジアの混合感染が疑われる患者です。対処と処方について教えてください。 臨泌 2008；62(4)：90-4.
4)簗田周一，伊藤博之，富田雅之，和田鉄郎，波多野孝史，岸本幸一，頴川　晋．TIP(パクリタキセル，イフォマイド，シスプラチン)療法が奏功した脳転移を有する再発性精巣腫瘍の1例．泌紀 2008；54(1)；43-6.
5)小池祐介，小杉　繁，山本順啓，下村達也，池本　庸，鷹橋浩幸．初診時に陰茎転移が認められた前立腺癌．臨泌 2008：62(3)；2513.

眼　科　学　講　座

教　授：	常岡　　寛	白内障，緑内障，眼病理
教　授：	谷内　　修	硝子体，網膜剝離，眼病理
准教授：	敷島　敬悟	神経眼科，眼病理，眼腫瘍
准教授：	郡司　久人	硝子体，網膜剝離，分子生物学
准教授：	高橋現一郎	緑内障，視野
准教授：	仲泊　　聡（国立身体障害者リハビリテーションセンターに出向）	神経眼科，視野，色覚
准教授：	戸田　和重	白内障，硝子体，視覚電気生理
講　師：	吉田　正樹	神経眼科，眼球運動，視機能，斜視
講　師：	中野　　匡	緑内障，視野
講　師：	渡辺　　朗	硝子体，網膜剝離，視覚電気生理
講　師：	神前　賢一	硝子体，網膜剝離，視覚電気生理
講　師：	酒井　　勉	黄斑変性，ぶどう膜，神経眼科
講　師：	林　　孝彰	色覚，遺伝性網脈絡膜・視神経疾患，黄斑変性
講　師：	三戸岡克哉	角膜，白内障
講　師：	柴　　琢也	角膜，白内障，屈折矯正
講　師：	久米川浩一	黄斑変性

教育・研究概要

I.　視覚・遺伝子研究部門

私たちの研究目標は，色覚異常と遺伝性網膜疾患の臨床的特徴と遺伝学的基盤を明らかにすることによって，臨床像と遺伝子型との関連性を見いだすことである。

Lanthony desaturated panel D-15 test（desaturated test）は，Farnsworth dichotomous test（panel D-15）に比べ，色相を変えずに明度を上げ彩度を落とした色覚検査器で，程度判定に用いられている。今回，異常3色覚における本検査器の有用性について検討した。対象は，等色法で異常3色覚と診断されpanel D-15をpassした中で，矯正視力1.0以上で眼疾患を認めない162例（男性155例，女性7例）である。desaturated testを実施しpassかfailに判定した。本検査をpassする割合が，1型3色覚と2型3色覚で等しいかどうか$\chi 2$検定にて検討し，オッズ比を算出した。有意水準5%未満を有意差ありとした。また，11歳未満と11歳以上で2分